

## いぐさ用除草剤ペントキサゾン粒剤の処理時期

いぐさ本田用除草剤ペントキサゾン粒剤の効果的な処理時期は、冬雑草に対しては植付時から植付後15日頃までの間、夏雑草に対しては3月下旬である。

農業研究センターい業研究所栽培部（担当者：橋本充）

## 研究のねらい

新規いぐさ用除草剤ペントキサゾン粒剤について、いぐさ本田の冬雑草及び夏雑草を効果的・効率的に防除できる処理適期を明らかにし、いぐさの生産安定を図る。

## 研究の成果

### 1 冬雑草に対する処理適期

冬雑草（スズメノテッポウ、タガラシ、オオアブノメなど）に対するペントキサゾン粒剤の除草効果は、植付後14～15日処理では高いが、植付後32～34日処理では極端に低下する。

このため、11月植えのいぐさ田において冬雑草を効果的に防除できるペントキサゾン粒剤の処理適期は植付時から植付後15日頃までの間である。

### 2 夏雑草に対する処理適期

前処理（DBN粒剤、2月下旬、3kg/10a処理）との体系処理で、3月下旬から4月中旬までの間に処理したペントキサゾン粒剤の夏雑草に対する除草効果は、非イネ科夏雑草（タカサブロウ、アゼナ類、カヤツリグサ類など）に対しては処理時期を通じて高いが、ノビエに対しては処理が遅れるに従って低下する。

このため、DBN剤を2月下旬に前処理した場合、いぐさ田の後期強害草であるノビエを抑えて、非イネ科夏雑草も効果的に防除できるペントキサゾン粒剤の処理適期は3月下旬である。

## 普及上の留意点

### 1 冬雑草に対する処理のみでは、春先から発生する夏雑草への効果は期待できない。また、夏雑草に対する処理のみでは、既に繁茂している冬雑草への効果も期待できない。

なお、夏雑草に対する処理において残存するノビエに対してはセトキシジムおよびフルアジホップP剤が有効である。

### 2 剤型が異なるペントキサゾンフロアブル剤においても処理適期は同様とみられる。

### 3 その他、使用に当たっては県除草剤使用基準を遵守して使用する。

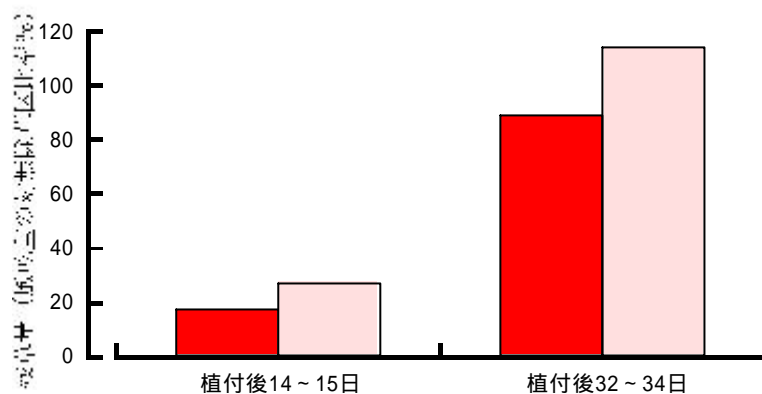


図1 ペントキサゾン粒剤の処理時期による冬雑草に対する除草効果  
(H9～H10年試験)  
植付日：11月20日  
調査日：2月19日(H9年試験)、2月25日(H10年試験)  
■ H9年試験 □ H10年試験

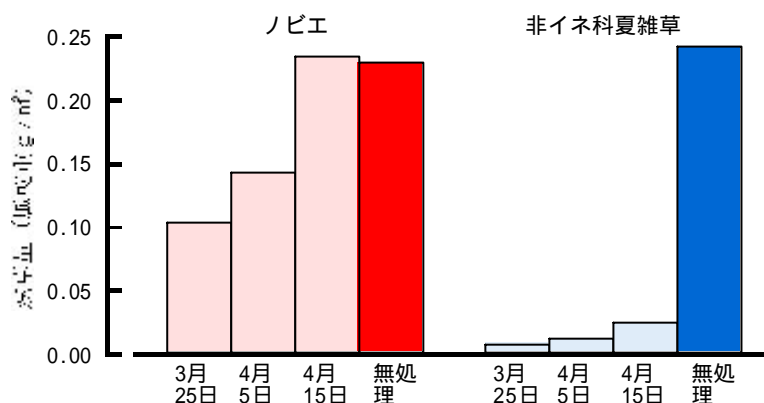


図2 ペントキサゾン粒剤の処理時期による夏雑草に対する除草効果  
(H10年試験)  
非イネ科夏雑草：タカサブロウ、アゼナ類、カヤツリグサ類など  
前処理：DBN粒剤 3kg/10a(2月25日)  
調査日：5月27日

表1 ペントキサゾン粒剤の登録使用基準(いぐさ関係)

作物名	適用雑草名	使用時期	適用土壌	10a当たり使用量	本剤のみを使用する場合の使用回数	使用方法
いぐさ	水田一年生雑草	植付後 雑草発生前 (11～12月)	砂壤土 ～ 埴土	1 kg	2回以内	湛水散布
		春雑草発生前 (3月下旬～ 4月中旬)				

使用上の注意事項

いぐさに使用する場合は、既発生の雑草に対する効果が劣るので雑草の発生前に時期を失しないように散布すること。冬雑草対象の場合は11月～12月まで、春雑草の場合は3月下旬～4月中旬までに散布すること。

本剤の1回散布のみでは十分な効果が得られない場合があるので、いぐさに適用がある薬剤との体系で使用する。